

今回は、「関飛行場の調査」に関する報告です。

## ◇ 全国高等学校社会科学・郷土研究発表大会で、最優秀賞を受賞しました！

主催： 全国高等学校文化連盟社会科学・郷土研究専門部設立準備会

場所： 神奈川県横浜市 戸塚公会堂

日程： 令和4年8月5日（金）・6日（土）

参加者： 河路康太 小原和也 渡邊貫太

（地域研究部3年）

テーマ： 「関飛行場の研究」 最優秀賞受賞

内容： 関市・坂祝町・美濃加茂市に建設された戦争末期の陸軍飛行場の研究。文献調査・聞き取り調査・遺構踏査を丹念に行い、特攻飛行場の実態把握に努めた。測量やドローン撮影、掘削土量や労働者動員数の推計、飛行機離着陸のシミュレーションなど、理系分野のアプローチを行うなど、多角的な研究手法が評価された。



## ◇ 大会の様子

全国高文連に所属する各地の郷土研究・社会科学系研究部の部活動が参加する全国大会で、前身の大会も含めると13回目の開催となります。本年度は神奈川県で開催されました。全国から選抜された12団体が参加する中、関高等学校地域研究部の「関飛行場の研究」が最優秀賞を受賞しました。

演劇部や吹奏楽部のようなメジャーな存在ではないため、郷土研究部門の地方組織がある都道府県は限られていますし、残念ながら、次々と縮小・消滅しているのが現状です。今回は、栃木、神奈川、静岡、岐阜、石川、鳥取から参加がありましたが、佐賀総文祭（2019）で活躍した山梨、北海道、島根、長崎、佐賀、千葉からの参加はありませんでした。

少子化や働き方改革に伴う部活動の統廃合、指導者の高齢化などにより、郷土研究クラブは減少傾向にあります。そんな厳しい現状をよそに、全国から集まった高校生たちの発表はどれも素晴らしいものでした。

主だった研究発表は以下の通りです。

・静岡県立三島北高校。富士山信仰の研究。女人禁制を破り、江戸後期に女性の富士登山が盛んとなった経緯を養蚕業振興と結びつけ、史料で裏付けた実証研究。

・栃木県立矢板高校。廃線鉄道と三角点の関係を、実地踏査と地図情報分析で解き明かした研究。メンバーは、野球部3名、卓球部1名からなる計4名の有志。

・神奈川県立足柄高校。廃線駅のかつての名物、鮎弁当の研究（福沢諭吉も愛した逸品）。製法を知る高齢者からの聞き取り記録は貴重。

このほかの研究も聞き応え十分でした。

2024年夏には、岐阜県で全国総文祭の開催が予定されています。岐阜県では、公立小中学校、高等学校で、県下一斉に「ふるさと教育」の実践が続けられており、郷土研究の機運も高まっているところです。明後年の全国総文祭開催に向け、高校生による郷土研究の輪を広げていきたいものです。



◇ 関市長、美濃加茂市長、県教育長・県民文化局長を表敬訪問しました！



関飛行場の立地する関市及び美濃加茂市の市長（尾関健治関市長、藤井浩人美濃加茂市長、左写真）、堀貴雄県教育長、笹橋智基県民文化局長（右下写真）の下を訪れ、全国大会最優秀賞受賞と研究内容の報告をしました。

忘れ去られようとしている郷土の歴史を掘り起こした高校生の活動に対し、両市長、県教育長、県民文化局長から、具体的かつ詳細な質問が複数寄せられました。さらに、関高校地域研究部が構想している一般への周知・啓発活動、平和教育への活用、今後の調査活動についても、賛同・激励の言葉をいただきました。



地域研究部長の河路康太さんは、「先輩の研究内容が素晴らしかったので引き継ぐことにした。地下壕を調査し、当時を知る高齢者の方々からの聞き取りを進めていくうちに、事実をしっかりと記録し後世につなぐことが自分たちに課せられた義務であると感じるようになった」と、答えていました。

さらに、「自分たちが暮らすこの地は、特攻と無縁だと思っていた。歴史を風化させぬよう、パンフレットの作製や研究発表をするなど、平和教育として語り継ぐ取り組みが必要」と語り、研究を引き継いでもらうよう後輩たちに思いを託しました。



◇ 次年度に向けての構想 関市文化財保護センターとの協力

関飛行場滑走路の一部とその周辺部には、縄文時代から奈良時代にかけての集落遺跡（大杉遺跡）や、奈良時代の古代寺院跡（大杉廃寺）があります。関市文化財保護センターの発掘調査によって、古墳時代の住居跡から、鏡を意図的に破壊したと考えられる「破鏡」の痕跡が見つかっています。破鏡の破片は長さ約8センチ、幅約2センチで、中国製の内行花文鏡の一部。後漢の所産と考えられています。

大杉遺跡は、滑走路が建設された台地上にあり、そのさらに北には、広々とした微高地や低湿地が広がっており、農業に適した土地柄であったと考えられます。遺跡の南側には、かつて関飛行場の司令部が置かれていたカナクズ山が横たわり、その南側の裾野では7世紀末から8世紀にかけての瓦を焼いた窯跡も見つかっています。破鏡、古代寺院、窯跡の存在から、この地域に、一定の勢力を誇った集団がいたことは間違いありません。



関市文化財保護センターと関高等学校は、今までに、関飛行場司令部地下壕の測量調査（前頁写真）、「探ろう！岐阜の歴史」（小中高生の歴史研究発表イベント、写真左）などを共催し、郷土の歴史解明のために、ともに歩みを進めてきました。

今後は、大杉遺跡や関飛行場跡を含め、先史・古代から近現代にいたるまでの地域の歴史の総合的研究や、研究成果の地域への還元を、地域の方々とともに実践していこうと考えています。